

いちごドリルプリント

答え合わせ・解説

問1	答え 1 千葉県	果実の産出額が高い県として青森県や山形県、長野県が知られていますが、これらは冷涼な気候を活かした果樹栽培が中心です。一方、千葉県は関東平野の一部であり、東京都に隣接する立地を活かして野菜と果実の両方で高い産出額を維持しているのが大きな特徴です。
問2	答え 1 小学校や中学校	地形図において「文」の字を記号化したものは、小学校や中学校を表す地図記号です。地域調査では、橋（地点A）や特徴的な景観を持つ商店街（地点B）といった目印を基準に、地形図上の記号と実際の土地利用を照らし合わせる読図の技能が求められます。地点Bのような細い路地が入り組んだ地域は、計画的に整備された新市街地ではなく、古くからの歴史を持つ居住区であることを示しています。
問3	答え 1 北西からの季節風の影響で、晴天の日が多くなり、乾燥した強い風が吹く。	茨城県などの関東地方（太平洋側）では、冬は北西の季節風が山を越えてくるため、水分が失われた乾燥した風が吹き、晴天が続くのが大きな特徴です。これに対し、冬に雨や雪が多くなるのは日本海側の気候であり、北東からの冷たい風（やませ）の影響で気温が上がりにくくなるのは東北地方の太平洋側の夏に見られる現象です。農業においては、こうした気候特性を理解することが地域の産業を理解する鍵となります。
問4	答え 2 住宅購入費用を抑えたい人々が、地価の安い郊外を選択して居住するため。	地価と人口移動の間には、家計の経済的な判断が働いています。都心部で地価が高騰すると、同じ予算で確保できる住居の面積が狭くなったり、家賃・ローンの負担が過大になったりします。そこで、都心部と比較して地価が安い郊外に住宅を構えることで、広い住空間や手頃な住居費を確保しようとする動きが強まります。これが郊外における人口増加の直接的な背景です。
問5	答え 4 京葉工業地域	千葉県の臨海部に位置する京葉工業地域は、大規模な埋め立て地に石油コンビナートや製鉄所が計画的に配置されたことで発展しました。そのため、他の工業地帯と比較しても、化学、石油・石炭、鉄鋼といった重化学工業の出荷額が占める割合が極めて高いのが特徴です。
問6	答え 4 関東ローム	関東平野の台地に堆積しているこの土層は、更新世（鮮新世末期から完新世まで）の火山活動によって噴出した火山灰が風で運ばれ、長期間にわたって積もったものです。鉄分が酸化しているため、赤みを帯びた色をしているのが特徴です。
問7	答え 1 関東地方の北部に位置する内陸県であり、日光などの歴史的な観光地を擁している。	栃木県は関東地方の北部に位置し、周囲を他の県に囲まれた内陸県です。県北西部には山地が広がり、日光などの国立公園や歴史的な街並みが存在します。また、県庁所在地の宇都宮市は工業や商業が盛んですが、県全体としては農業や観光業も重要な産業となっています。
問8	答え 1 転入者数が転出者数を超過しているため、社会的増加が生じている。	東京都は全国で最も合計特殊出生率が低い水準にあり、出生数が死亡数を大きく上回る「自然増」は主な要因ではありません。実際には、就業機会や教育機関が集中していることから、他地域からの転入者数が転出者数を上回る「転入超過」が起きており、これによって人口が維持・増加しています。
問9	答え 3 東京都などの巨大な消費地に近く、鮮度が求められる製品を供給するのに有利なため	生乳は鮮度が極めて重要であり、消費地に近い地域ほど、加工の手間がかからず付加価値の高い「飲用牛乳」として出荷される傾向があります。これを「近郊農業」の特色の一つとして捉えることができます。一方で、消費地から遠い北海道では、保存のきくバターやチーズなどの加工用としての利用割合が高くなります。
問10	答え 1 近郊農業	大都市という巨大な消費地に近い利点を活かし、収穫から出荷までの時間を短縮して新鮮な野菜を供給する形態を近郊農業と呼びます。輸送コストが抑えられることや、消費者のニーズを素早く生産に反映できることが大きな特徴です。
問11	答え 2 輸送用機械器具	群馬県は太田市を中心に自動車産業が非常に盛んであり、製造業出荷額において輸送用機械器具が最大の割合を占めています。一方、選択肢にある化学工業は、京葉工業地域（千葉県など）のような臨海部の工業地帯で高い割合を示す傾向があります。
問12	答え 4 その地域に住んでいる「夜間人口」よりも、仕事や通学のために滞在している「昼間人口」の方が少ない。	昼夜間人口比率は、夜間の居住人口を100とした場合の昼間人口の割合を示します。数値が100を下回るということは、昼間にその地域にいる人口が、夜間に住んでいる人口よりも少ないことを意味します。これは、住宅地としての機能が強く、仕事や学びの場が県外（主に東京都）にある人が多いことを裏付けています。
問13	答え 2 冬は南東の海側から吹き込む湿った季節風の影響で、平野部でも毎日多くの降雪が見られる。	栃木県の冬の気候は、南東（海側）からではなく、北西（山地側）から吹く乾燥した季節風によって決まります。そのため、冬は雨や雪が少なく乾燥した晴天の日が続くのが一般的です。選択肢にある「いちごの栽培」は、この豊富な日照時間を有効活用した施設園芸農業の代表例です。